米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く⑯³

米原市の歴史文化の特徴①
―文化財保存活用地域計画策定中―

○文化財のマスタープラン

米原市でも、急速な少子高齢化や中山間地域での人口減少、地域の伝統行事に関する関心の低下、地域コミュニティの希薄化が進み、これまで地域で守り伝えられてきた歴史文化の保存や継承が困難になりつつあります。さらに新型コロナウイルスの蔓延が追い打ちをかけている状況です。

こうしたなかでも、市内では、まちづくりの取り組みの中で、文化財を「地域の宝」として位置づけ、里山の城跡を舞台にした活動や、自治会史の発行をきっかけにした地域の再発見事業などが行われています。このような動きを支援し協働するために、これまでに行ってきた様々な調査で収集してきた歴史文化に関する情報を集約し、地域振興や観光施策へ活用し、米原らしさを生かした文化財の保存活用のための総合的な指針「米原市文化財保存活用地域計画」の策定を進めています。

米原市は、伊吹・霊仙を頂とする山々から琵琶湖へとつながる水と緑を守り、水の流れの上流に位置するまちとして、平成二一年「水源の里まいばら元気みらい条例」が制定された水源の里です。米原市の歴史的象徴はこの豊かな水と、前号で紹介した交差する道です。そして道を通じて生み出されるにぎわいが米原市を形づくってきました。

そこで、歴史文化を「水」と「巷」という二つのキーワードで読み解いていきたいと思います。両者はそれぞれが独立したものではなく、ときに交わることで米原市独自の文化を醸成させていきました。

○水の生まれる地

山々から流れ出る豊富な水のみちは、姉川や天野川となって地域を潤し、近畿地方の水源でもある琵琶湖を支えています。さらに、一部は藤古川、岐阜県の牧田川を通じて伊勢湾へも注ぎ、美濃西部の水源の一つでもあります。これらの水源である山は、主に石灰岩で成っており、ドリーネやカレンフェルトといった石灰岩地帯特有の景観を作り出し、豊富な湧水を生み出しています。その中の一つである大清水の泉神社の湧水(日本百名水)は、一日に四五〇〇トンもの湧出量を誇っており、山が生み出す湧水の豊富さを思い知らされます。

市域の中央部には天野川が流れており、その中流域には、日本国内のホタル発生地において唯一特別天然記念物に指定されている長岡のゲンジボタルが繁殖しています。天野川水系の地蔵川では清らかな水にしか育たない湧水花の梅花藻や、絶滅危惧種にも指定されているハリヨなど、水源の地ならではの地域固有の生きものに恵まれています。

水源である山には、特別天然記念物のカモシカをはじめとして、絶滅危惧種として指定されているイヌワシなどが生息しています。伊吹山頂草原植物群落は、伊吹山の地質、気候に加えて、人々の生活がつくりだしたお花畑であり、「日本百名山」の選定者である文筆家の深田久弥が「この世の極楽」と感嘆した、自然と人の融合によって生まれた美しい景観です。

このように山を水源とする山麓の地域には、独特な自然景観があり、そこには大小さまざまな多くの命が集い、水に寄り添うすべての生命が、米原独自の自然を築き上げてきたのです。

▲ハリヨ

消費生活相談コーナー

還付金詐欺に気をつけて！

市職員等をかたり、医療費や介護保険料などの還付金があると電話をかけ、ATMに誘導してお金を振り込ませるという還付金詐欺が増加しています。

消費生活相談員より一言

市職員が個人宅に還付金があると電話をかけて、ATMへ誘導し操作方法を説明することはありません。

もし、同様の電話があった場合は相手の名前、電話番号等を確認し、一度電話を切り、事実確認をしましょう。

「おかしいな」と思ったら、一人で悩まず、まずは消費生活相談窓口へご相談ください。

市 消費生活相談窓口(本庁舎)

相談専用 ☎53-5110

(受付) 平日 9時30分～16時

米原警察署情報

問 米原警察署 ☎52-0110

高齢者の交通安全

信号がない交差点では、高齢運転者の「出会い頭事故」が数多く発生しています。自動車を運転する時は、交差点での安全確認を確実に行いましょう。

また、道路を歩く時や自転車に乗る時は、通り慣れた道でも確実に安全確認を行い、特に夕暮れや夜間は、ドライバーからよく見えるように明るい服装や反射材を身に着けてください。

安全確認と一人一人の工夫で、高齢者の交通安全を守りましょう。

令和4年市内交通事故数(1月末時点)

件数　8件(+4件)　死者　0人(±0人)
傷者　10人(+6人)　※( )内は前年比